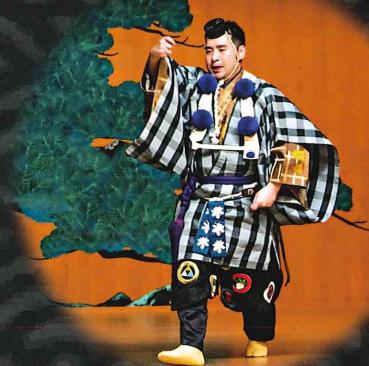


能樂「世界無形文化遺産」

第29回

長野能



能狂能
鉄輪 柏崎
蝶牛 岐
早鼓 松木千俊
——
観世喜正 山本則俊

定期公演

令和4年
5月15日(日)

12時開場 午後1時開演
ホクト文化ホール大ホール

(長野県県民文化会館大ホール)
〒380-0928 長野県長野市若里1-1-3

撮影：能（柏崎）前島吉裕
能（鉄輪）青木信二
狂言（蝶牛）平瀬拓

◆主催 長野県能楽連盟

◆後援 長野県教育委員会 長野県芸術文化協会 長野市教育委員会 長野市文化芸術協議会 信濃毎日新聞社

感染症対策を行っておりますご協力よろしくお願い致します ◉ご入場は必ずマスク着用にてお願いいたします。◉受付時、検温させていただきます。

お 話 武田 祥照

連吟

紅葉狩

早津 光義
仁井田 邦通

仕舞

永島 充
山階彌右衛門
馬野 正基

柏崎 兼平

姥女 舞アト

休憩 二十分

越後の花若の母（前シテ）のもとに、鎌倉在住中急逝した夫である柏崎殿の形見と父の死後嘆きのあまりに出家してしまった花若の文を持つて、家来の小太郎（ワキ）が故郷柏崎に向かいます。母は二重の悲しみに愕然とします。特に何も告げぬまま出家した我が子を、恨みますが無事を祈ります。（中入）

場面が変わり、善光寺住僧（ワキレツ）と花若（子方）が登場し、毎日如来堂へお参りしている由を述べます。

一方、花若の母（後シテ）は狂乱の態にて花若の行方を求めて、越後を出て善光寺に辿り着きます。住僧が如来堂の内陣に入ろうとする母を止めますが、「この阿弥陀仏は女人を救済し、罪深い者でも極楽に導いて下さる」と反論します。シテは夫の形見を如来堂へ捧げ、夫を偲びます。さらに形見を身に付け、生前の夫へ想いや人生のはかなさ、弥陀の慈悲などを説く舞を舞います。この様子を見た住僧は出家した花若が、母親の子供であると確信し対面させます。

再会を果たした親子は、喜び合い帰っていくのでした。

能 柏崎（かしわざき）

狂言 牛（かぎゅう）

修行を終えて戻る途中の山伏、なんだか眠くなつてしまい、そこで大きな藪を見つけ、そこで眠ってしまいます。

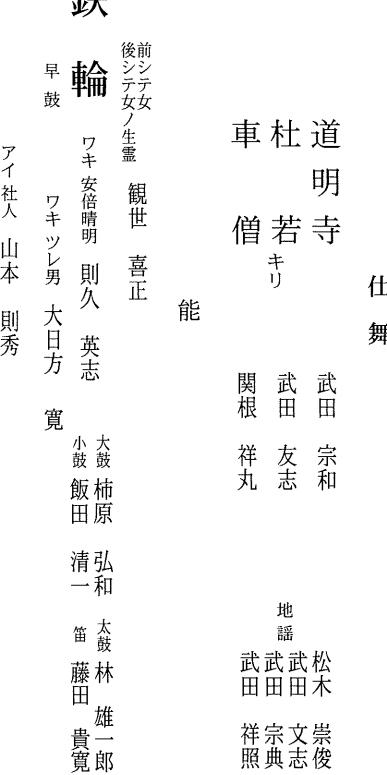
次に登場した主人と太郎冠者。当時はカタツムリに長寿の効能があると信じられていました。主人は祖父の長寿を願つて、太郎冠者にカタツムリを取つてこれいと言いつけています。ところが太郎冠者はカタツムリをまつたく知りません。主人は、力タツムリとは「土から生じて藪に住む、頭が黒い、腰に貝をつけている、時々は角を出す、年月を経たものは人ほどの大きさがある」などと特徴を教えます。大きな藪を見つけた太郎冠者がその中に入つてみると、人ほどもある頭の黒いものが寝てゐるではありませんか。もしやカタツムリではと思つた太郎冠者は…。

能 鉄輪（かなわ）

京都の北辺、貴船神社に丑の刻参りをするいわくありげな女性。彼女の夫が別れ女性と懇意になり、離縁されてしまつた腹いせに、「鬼になりたい」という願掛けに毎夜毎晩貴船神社に通つてくる。ある夜、神のお告げが出た。「顔には丹を塗り、身には赤き衣をまとい、鉄輪（五徳）の三つの脚に火を灯して頭に載せ、怒る心を持つならば必ず鬼になれましょ」と。そのお告げを聞き、見る間に形相の変わつていく女。

一方、元夫の男性は近頃夢見が悪いので、その相談に高名な陰陽師・安倍晴明を作つて祈祷を行う…。

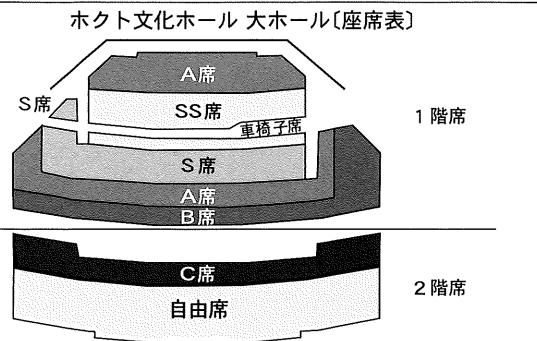
昨今大ブームの「鬼」。恐ろしい鬼は滅ぼされるべき存在なのかもしれません、訪ねる。夫を見た晴明は即座に女性の恨みがつのつて命が危ないことを見抜き祭壇「鉄輪」で描かれるのは根つからの鬼ではなく、いわば人間生活の中で生み出されることになつた「情念の鬼」。人が鬼にならずに済む心穏やかな生活への思いこそ、この曲のテーマといえるかもしません。



能面展

能は複合芸術で、役者の演技だけでなく能楽堂の建築、装束、面、樂器など色々な要素があります。

そのなかで一般の方に一番目につくのは能装束と能面と言われています。この機会に能面を十分ご鑑賞ください。



観能券料

S S 指定席	7,500円
S 指定席	6,000円
A 指定席	5,000円
B 指定席	4,000円
C 指定席	3,000円
自由席	2,000円
椅子	4,000円
自 車 椅 子 席	(介助者1名含む)

お申し込み・お問い合わせ先

ホクト文化ホール 電話 026-226-0008

ご購入窓口

ホクト文化ホール 電話 026-226-0008

お問合せ・電話購入先

長野能実行委員会 電話 080-1330-6807

3月1日(火)午前10時 発売開始 お申し込みはお早目に！